



RI 第 2 6 1 0 地区

東となみロータリークラブ会報

2013-2014 年度 No. 1 1

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334、

inashorc@athena.ocn.ne.jp

2013-2014 年度 会長 水島政光、幹事 三角信行

2013-2014 年度 RI テーマ



「ロータリーを 実践し
みんなに 豊かな人生を」
(ロン D. パートン会長)

例 会 記 録

第 1 6 8 8 回例会

平成 2 5 年 9 月 1 8 日(水) 井波文化センター

1. 点 鐘 会長
2. ソング：四つのテスト
3. ビジター：岡部一輝君(南砺 RC)
4. 会長の時間：朝晩涼しくなりました。16日に高瀬神社剣道大会が台風の為、延期になりました。



5. 幹事報告：①IMの出欠確認
②地区大会10月5日は乗合せで行きます。6日はマイクロバスが庄川エントランス、井波、福野とまわります。
③例会変更は事務局に確認してください。



6. 委員会報告：なし
7. ニコニコBOX(SAA：本日4名)
齊藤会員：岡部さんようこそ、ようやくやっと秋晴れになりました、仕事日和です。
中島会員：岡部さんようこそ、敬老の日に孫のピアノ発表会に行つて来ました。エントリーナンバー何と1番でした。心臓に良くない1日でした。
山本会員：この連休出雲大社、足立美術館、城崎温泉に行つて来ました。台風一過で素晴らしい天候でした。母親教室の講話で早退します。水島さんごめんなさい。
河合会員：岡部さんようこそ、朝夕の気温の変化についてゆけず、体調が狂っています。

卓話 「 福野夜高あんどん南相馬市へ 」
水島会長(長谷川会員代理)

福野夜高あんどんの浦町支援遠征団は南相馬市に慰問にいきました。まだまだ手つかずの状態でした。



(水島会長卓話資料より)



依然残る深い爪痕

福野夜高行燈の浦町支援遠征団は、福島第1原発から20km圏内にあり昨年4月まで立ち入り禁止の避難指示区域であった南相馬市小高区を訪れた。津波被害を受けた福中台を中心として、散乱したままの残骸など震災の爪痕を目の当たりにした。

2011年3月11日、震災8弱を襲った南相馬市。死者は1,042人(4月1日現在)に上る。地震、津波、放射能汚染に見舞われ、震災前に約7万5,000人いた人口は約4万6,000人に減った。約1万7,000人が自宅に帰る日を待たぬが、今も市外で避難生活を送る。移住を決断し、南相馬に別れを告げた人も6,000人余りを数える。

小高区の大部分は現在、避難指示解除準備区域となり、月中の立ち入りが可能だが、道の除染作業はほとんど進んでいない。下水道などのイン

フラ復旧と中継に遅れている。遠征団員が目にした町に人影はなく、「あの日」から時が止まったかのように静まり返っていた。



除染進まず復旧に遅れ

フラ復旧と中継に遅れている。遠征団員が目にした町に人影はなく、「あの日」から時が止まったかのように静まり返っていた。

とあるボランティアガイド、坂本真融さん(71)＝同市浜町区一から「多くの移民が海岸沿いに住んでいた」と説明を受け、遠征団員はショックを受けた。遠征団世話人の山田勝啓さん(48)は「歴史的なつながりを持つ者として南相馬の現状をしっかりと知り、絶対に忘れてはいけない」と、力を込めて話していた。

福光・城端支局長 佐藤 範幸

「震災以降、祭りなんて全然興味なかった。でも、今日は祭りっていいなと思った。来てくれて本当にありがたう」。先月27日、福島県南相馬市で福野夜高行燈を担いだ現地の子どもが話をしてくれた。「ヨイヤサー、ヨイヤサー」。子どもの元気な掛け声が町に響いていた。

復興を願い南相馬を訪れたのは南砺市福野夜高行燈の浦町支援遠征団。取材のためバスで同行した。当日、福島夜の天気予報は大雨。団員は車中、何度もパソコンで雨

雷レーダーを確認した。「降らんといってくれ。どうしても子どもに行燈見せんなん」。後ろの席で祈るようにつぶやく団員もいた。

パレード終盤、どうとう大粒の雨が降りだした。ずぶぬれで雨宿りする子どもたちはそれでも「楽しかった」と声を弾ませた。「これもいい思い出や」と、同じくずぶぬれの団員たちが笑いとばす。「来て良かった」。子どもと団員の笑顔に心からそう思った。

南相馬の子どもたちへ。あの日、夜高行燈を担いだこと、ずぶぬれで一緒に雨宿りしたこと、忘れてないでほしい。団員も記者も南相馬を忘れないでいるから。

南相馬を忘れない

詳細は、HP の例会資料をご参考に！

閉会点鐘